（別記）

令和８年度紫波町農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

１　地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当該地域は、岩手県のほぼ中央、北上盆地の上流部に位置し、全耕地面積に占める水田の割合が 78%で、基盤整備率が 82.7%と整備が進んでいる。

一方、農家の高齢化が進んでおり、農家戸数の減少がみられる。

また、麦・大豆については、ブロックローテーションで作付けしているほ場条件によっては湿害による単収低下、年次による変動が顕著となっている。

２　高収益作物の導入や転換作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

本町は、農家の高齢化による農家戸数の減少に伴い、多量の農地が供給され、需要と供給のバランスが崩れて供給過剰が予想される。省力的で労働生産性が高いため、子実用とうもろこし等の高収益作物を導入することで、限られた担い手で農地を維持することができ、併せて、畜産飼料の町内自給率も向上する。行政としては高収益作物の導入及び販売先強化の支援を行い、高収益作物の産地化を目指す。

３　畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

本町は、水稲を中心とした麦、野菜、果樹、畜産を取り入れた複合経営が行われている。農業生産基盤の整備開発により、町内各地域で大区画ほ場整備事業が実施され、営農活動の効率化や生産性の向上、農地の集約による省力化を推進していく必要がある一方で、農家の高齢化による離農が問題となっている。そのような中で、長年、畑作物のみを作付けしている水田については、地域の意向を把握しながら国の畑地化支援等により、畑地化を推進し、収量向上、労働力の省力化を目指す。

また、本町は水稲、小麦、そばのブロックローテーションを中心的に行っており、近年、省力化の観点から子実用とうもろこしを輪作に新たに加える体系を試験的に行っているため、課題解決に向けた対応策として、省力化できる作物の導入を進めていく。

４　作物ごとの取組方針等

（１）主食用米

うるち米については、「銀河のしずく」を中心に、「ひとめぼれ」の作付けを行う等、仕向け先、用途別のニーズに対応した良食味米の安定生産によって、米の主産地としての地位を確立する。

もち米については、「ヒメノモチ」を主に作付けし、もち米団地を維持・継続していく。

種子生産については、岩手県農産物改良種苗センターとの契約に基づき作付けを行っていく。

販売については、前年の需要動向や集荷業者等の意向を勘案しつつ、市場や購買者等実需者が必要とするものを提供する（※以降、「マーケットイン」という）。

また、播種前に販売数量の見通しを立て価格変動幅を一定に収めることができるよう事前契約の拡大を推進する。

農業生産工程管理（GAP）の取組については、認定方針作成者と連携しながら、実需者の要望に対応したGAPの認証取得に向け農業者の支援を行う。

（２）備蓄米

契約数量に応じた生産に取り組む。

（３）非主食用米

ア　飼料用米

飼料用米は地域内で一定の需要があることから、転作作物として継続して取り組む。

生産の拡大にあたっては、多収品種を導入するとともに、団地化や直播栽培・疎植栽培等により生産コストの低減を図る。加えて、町のブランド肉畜である「岩手しわ　もちもち牛」ブランド確立のため、一定程度の飼料用のもち米の確保を図る。また、耕種農家と畜産農家との耕畜連携を推進するとともに、実需者との結びつきを強化し生産拡大を図る。

イ　米粉用米

今後も主食用米の需要の減少が見込まれる中、米粉用米も水田活用米穀の一つと位置づけ、実需者のニーズに応じた生産・販売を進める。

ウ　新市場開拓用米

主食用米の需要が年々減少する中、食料自給率・食料自給力の向上や米農家の所得向上を図っていくためには、海外市場に進出し、輸出を拡大していく必要がある。

エ　WCS用稲

主食用米の需要の減少が見込まれる中、WCS用稲を転作作物として取り組む。

飼料用米の単収向上が難しいほ場を中心に作付けを推進し、地域の畜産農家や核となっているコントラクター組織との結びつきを強化するとともに、耕畜連携、ほ場集積及び組織の機械装備の充実を図りながら生産を拡大する。

オ　加工用米

加工用米の作付けについては、地域の担い手を中心に集積を進め、実需者との複数年契約等の結びつきによって生産することとし契約数量を確保する。特に加工用うるち米については、酒造メーカーから需要がある品種の作付けを拡大する。

加工用もち米については、主食用もち米とのセット販売を実需者から要望されているため、長期契約を基本とし需要量に応じた生産を行う。

（４）麦、大豆、飼料作物

ア　麦

コンタミ防止及びマーケットインの考え方のもと、地域ごとに一定程度の品種統一も視野に入れて推進する。また、担い手への利用集積や団地化による作業効率の向上とコスト低減を図るとともに、ほ場の排水性改善等により単収の向上を図る。

イ　大豆

実需者との契約数量増加に努め生産の拡大を図る。

また、基幹作と小麦作後の二毛作の取組を進めながら、実需者が求める高品質な大豆の安定生産を図っていく。

さらに、作業効率の向上やコスト低減、単収の向上により収益を確保するため、担い手への利用集積や団地化、ほ場の排水性の改善を推進する。

ウ　飼料作物

自給飼料の生産の継続と、地域内での耕畜連携の取組をさらに進めることにより、安定した生産と供給を図る。

また、中山間地域等を中心に水田放牧の拡大を図る。

さらに、新たに子実用とうもろこしの導入の推進を図る。

（５）そば、なたね

ア　そば

実需者との契約数量増加に努め、生産を拡大する。

産地交付金を活用し、県内有数の産地として基幹作と小麦作後の二毛作の取組を推進するとともに、湿害対策の取組により品質・単収の向上を図る。

イ　なたね

取組なし。

（６）地力増進作物

規模拡大に取り組む経営体が減少している中で、農業経営を継続していくため、すき込みを前提とした地力増進作物(ソルガム、エンバク、ライムギ、イタリアンライグラス等)の作付けを推進し、その後の戦略作物や高収益作物による収量の向上や農業所得向上に努める。

また、水田活用の直接支払交付金のほか環境保全型農業直接支払交付金とも連携し、町内での取組を強化する。

（７）高収益作物

収益性の高い地域振興作物（きゅうり、トマト、ミニトマト、ピーマン、たまねぎ、花き等）及び重点園芸作物（ねぎ、レタス、えだまめ、キャベツ、ズッキーニ等）等、地域の特性を生かした振興品目を定め、マーケットインの考え方のもとに生産を拡大する。

土地利用型野菜については、機械化等による経営規模の拡大や、小麦収穫後の圃場を活用し作付面積の拡大を目指す。また、集約型野菜については、施設等の整備や長期出荷作型の導入により単収及び生産性の向上を図る。

花きについては、品目ごとに異なる需要期出荷に向けた技術や品種の導入、高品質な生産に向けた施設・設備の導入を推進する。

別紙

５ 作物ごとの作付予定面積等

（単位：ha）

作物等	前年度作付面積等		当年度の作付予定面積等		令和８年度の作付目標面積等	
		うち二毛作		うち二毛作		うち二毛作
主食用米	2,362	0	2,437	0	2,201	0
備蓄米	0	0	0	0	0	0
飼料用米	57	0	46	0	77	0
米粉用米	8	0	9	0	10	0
新市場開拓用米	0	0	0	0	2	0
WCS用稲	96	0	89	0	100	0
加工用米	129	0	122	0	170	0
麦	718	0	672	0	760	0
大豆	24	43	22	40	55	31
飼料作物	163	6	158	6	190	5
・子実用とうもろこし	20	0	20	0	10	0
そば	1	313	1	305	370	360
なたね	0	0	0	0	0	0
地力増進作物	0	0	0	0	1	0
高収益作物	51	1	44	1	73	6
・野菜	43	1	36	1	66	6
・花き・花木	7	0	7	0	6	0
・果樹	1	0	1	0	1	0
・その他の高収益作物	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
・	0	0	0	0	0	0
畑地化	2	0	12	0	12	0

６ 課題解決に向けた取組及び目標

整理番号	対象作物	使途名	目標	前年度（実績）	目標値
1	飼料用米（基幹作物）	団地化加算助成	団地化面積（ha） 10a当たりの直接労働時間（h/10a）	（令和７年度）27.1 （令和７年度）12.5	（令和８年度）41.0 （令和８年度）15.5
2	飼料用米（基幹作物）	低コスト生産助成（直播）	取組面積（ha） 10a当たりの直接労働費（円/10a）	（令和７年度）6.2 （令和７年度）5,782	（令和８年度）20.0 （令和８年度）5,600
3	飼料用米（基幹作物）	低コスト生産助成（疎植）	取組面積（ha） 苗箱の削減（箱/10a）	（令和７年度）27.9 （令和７年度）9.0	（令和８年度）40.0 （令和８年度）10.0
4	野菜、花き（基幹作物）	作付拡大助成（園芸品目）	単年度毎の作付拡大面積（ha）	（令和７年度）2.0	（令和８年度）5.0
5	飼料用米の生産圃場の稲わら(基幹作)	わら利用助成（耕畜連携）	取組面積（ha）	（令和７年度）6.8	（令和８年度）20.0
6	飼料作物（基幹作物）	水田放牧助成（耕畜連携）	取組面積（ha）	（令和７年度）0.9	（令和８年度）3.3
7	粗飼料作物等（基幹作物）	資源循環型利用助成（耕畜連携）	取組面積（ha）	（令和７年度）22.9	（令和８年度）30.0
8	野菜（基幹作物） 花き･花木(基幹作物)	地域振興作物助成	取組面積（ha）	（令和７年度）15.9	（令和８年度）30.0
9	野菜（基幹作物）	重点園芸作物助成	基幹作作付面積（ha）	（令和７年度）2.6	（令和８年度）5.0
9	野菜（二毛作）	重点園芸作物助成	二毛作作付面積（ha）	（令和７年度）0.3	（令和８年度）3.6
10	そば （二毛作） 大豆（二毛作） 飼料作物（二毛作）	二毛作・二期作助成	作付面積（ha）	（令和７年度）305.2 （令和７年度）42.6 （令和７年度）5.9	（令和８年度）360.0 （令和８年度）40.0 （令和８年度）10.0
10	そば （二期作）	二毛作・二期作助成	作付面積（ha）	（令和７年度）0.0	（令和８年度）8.0
11	小麦（もち姫）（基幹作物）	小麦土壌改良助成	取組面積（ha） 10a当たりの収量（kg/10a）	（令和７年度）53.2 （令和７年度）281.4	（令和８年度）70.0 （令和８年度）315.0
12	子実用とうもろこし（基幹作物）	子実用とうもろこし作付助成	作付面積（ha） 10a当たりの収量（kg/10a）	（令和７年度）19.9 （令和７年度）668.0	（令和８年度）20.0 （令和８年度）700.0
13	そば（基幹作物）	【国枠】そば振興助成	作付面積（ha）	（令和７年度）1.0	（令和８年度）5.0
14	新市場開拓用米（基幹作物）	【国枠】コメの新市場開拓助成	取組面積（ha）	（令和７年度）0.0	（令和８年度）1.0
15	地力増進作物（基幹作物）	【国枠】地力増進作物助成	取組面積（ha）	（令和７年度）0.0	（令和８年度）2.0
16	えだまめ（基幹作物） 大豆(基幹作物)	畑作物団地化助成	団地化面積（ha）	（令和７年度）21.6	（令和８年度）32.0
17	小麦（ゆきちから、銀河のちから）（基幹作物）	小麦産地継続助成	取組面積（ha） 10a当たりの収量（kg/10a）	（令和７年度）332.9 （令和７年度）275.0	（令和８年度）370.0 （令和８年度）230.0
18	飼料用米（基幹作物）	飼料用米・米粉用米作付継続助成	取組面積（ha） 取組数量（t）	（令和７年度）55.7 （令和７年度）301.5	（令和８年度）80.0 （令和８年度）443.2
18	米粉用米（基幹作物）	飼料用米・米粉用米作付継続助成	取組面積（ha） 取組数量（t）	（令和７年度）7.9 （令和７年度）45.4	（令和８年度）8.0 （令和８年度）44.3
19	野菜、花き・花木、飼料用米 WCS用稲、大豆（基幹作物）	環境保全型農業推進助成(堆肥の施用)	取組面積（ha）	（令和７年度）0.0	（令和８年度）15.0

※　必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。
※　目標期間は３年以内としてください。

7　産地交付金の活用方法の概要

都道府県名：岩手県

協議会名：紫波町農業再生協議会

整理番号	使途 ※1	作期等 ※2	単価 （円／10a）	対象作物 ※3	取組要件等 ※4
1	団地化加算助成	1	10,000	飼料用米（基幹作物）	団地化等
2	低コスト生産助成（直播）	1	10,000	飼料用米（基幹作物）	直播栽培等
3	低コスト生産助成（疎植）	1	3,000	飼料用米（基幹作物）	疎植栽培等
4	作付拡大助成（園芸品目）	1	20,000	野菜、花き・花木（基幹作物） （別表9のとおり）	作付拡大等
5	わら利用助成（耕畜連携）	3	13,000	飼料用米の生産圃場の稲わら（基幹作物）	わら利用等
6	水田放牧助成（耕畜連携）	3	13,000	飼料作物（基幹作物） （別表3のとおり）	水田放牧等
7	資源循環型利用助成（耕畜連携）	3	13,000	粗飼料作物等（基幹作物） （別表4のとおり）	資源循環等
8	地域振興作物助成	1	13,000	野菜、花き・花木（基幹作物） （別表9のとおり）	実需者等へ出荷・販売等
9	重点園芸作物助成	1	19,000	野菜（基幹作物）（別表9のとおり）	10a以上作付すること等
9	重点園芸作物助成（二毛作）	2	19,000	野菜（基幹作物）（別表9のとおり）	10a以上作付すること等
10	二毛作・二期作助成（二毛作）	2	12,000	そば、大豆、飼料作物（二毛作） （別表6のとおり）	戦略作物との二毛作等
10	二毛作・二期作助成（二期作）	2	6,000	そば（二期作）	二期作等
11	小麦土壌改良助成	1	13,000	小麦（もち姫）（基幹作物）	石灰質資材を散布等
12	子実用とうもろこし作付助成	1	25,000	子実用とうもろこし（基幹作物）	排水対策を実施等
13	【国枠】そば振興助成	1	20,000	そば（基幹作物）	排水対策を実施等
14	【国枠】コメの新市場開拓助成	1	20,000	新市場開拓用米（基幹作物）	実需者等へ出荷・販売等
15	【国枠】地力増進作物助成	1	20,000	地力増進作物（基幹作物） （別表7のとおり）	水稲作付面積の前年度からの減少分等
16	畑作物団地化助成	1	10,000	大豆、えだまめ（基幹作物）	排水対策及び団地化の実施等
17	小麦産地継続助成	1	5,000	小麦（ゆきちから、銀河のちから）（基幹作）	排水対策及び団地化の実施等
18	飼料用米・米粉用米作付継続助成	1	6,000	飼料用米・米粉用米（基幹作）	前年度から継続しての作付等
19	環境保全型農業推進助成(堆肥の施用)	1	2,000	野菜、花き・花木、飼料用米、WCS用稲、大豆 （基幹作）	堆肥の施用等

※1　二毛作及び耕畜連携を対象とする使途は、他の設定と分けて記入し、二毛作の場合は使途の名称に「○○○（二毛作）」、耕畜連携の場合は使途の名称に「○○○（耕畜連携）」と記入してください。
　　ただし、二毛作及び耕畜連携の支援の範囲は任意に設定することができるものとします。
　　なお、耕畜連携で二毛作も対象とする場合は、他の設定と分けて記入し、使途の名称に「○○○（耕畜連携・二毛作）」と記入してください。
※2　「作期等」は、基幹作を対象とする使途は「1」、二毛作を対象とする使途は「2」、耕畜連携で基幹作を対象とする使途は「3」、耕畜連携で二毛作を対象とする使途は「4」と記入してください。
※3　産地交付金の活用方法の明細（個票）の対象作物を記載して下さい。対象作物が複数ある場合には別紙を付すことも可能です。
※4　産地交付金の活用方法の明細（個票）の具体的要件のうち取組要件等を記載してください。取組要件が複数ある場合には、代表的な取組のみの記載でも構いません。

別表9（作付拡大助成・地域振興作物助成・重点園芸作物助成対象一覧表）

整理番号	使途名	区分	対象作物名
4	【県推進メニュー】作付け拡大助成（園芸品目）	野菜	きゅうり
			ねぎ
			えだまめ
			キャベツ
			ズッキーニ
		花き	りんどう
			きく類（小ぎく、輪ぎく、スプレーぎく））
8	地域振興作物助成	野菜	きゅうり
			トマト（加工用を除く）
			ミニトマト
			ピーマン（パプリカ含む）
		花き	アスター
			アネモネ
			アリウム
			アルストロメリア
			カーネーション
			かすみ草
			カラー
			カンパニュラ
			きく類（小ぎく、輪ぎく、スプレーぎく）
			グラジオラス
			くじゃく草
			ケイトウ
			コスモス
			シャクヤク
			スターチス
			ストック
			スターチスシヌアータ
			ソリダコ
			ダリア
			チューリップ
			デルフィーニューム
			ラクスパー
			トルコキキョウ
			アキレス
			アスチルベ
			千日紅
			バラ
			ひまわり
			フリージア
			ブプレウルム
			ゆり
			リューココリーネ
			エレムレス
			ラナンキュラス
			ラン
			リアトリス
			りんどう
			ヒペリカム
9	重点園芸作物助成	野菜	レタス
			ズッキーニ
9	重点園芸作物助成（二毛作）	野菜	レタス
			ズッキーニ
			ねぎ
			えだまめ
			キャベツ

（別表3） 水田放牧対象作物の範囲

オーチャードグラス
チモシー
イタリアンライグラス
ペレニアルライグラス
ハイブリットライグラス
スムーズブロムグラス
トールフェスク
メドーフェスク
フェストロリウム
ケンタッキーブルーグラス
リードカナリーグラス
バヒアグラス
ギニアグラス
カラードギニアグラス
アルファルファ
オオクサキビ
アカクローバ
シロクローバ
アルサイククローバ
ガレガ
ローズグラス
パラグラス
パンゴラグラス
ネピアグラス
セタリア

（注） 上記の対象作物については、食用に供される畜産物を生産するために飼養される牛、馬、羊、山羊に供される場合に限ります。

（別表４） 粗飼料作物等の範囲

青刈りとうもろこし
青刈りソルガム
子実用とうもろこし
テオシント
スーダングラス
青刈り麦（らい麦又はえん麦を含む。またサイレージ化したものを含む。）
青刈り大豆
えん麦
WCS用稲
オーチャードグラス
チモシー
イタリアンライグラス
ペレニアルライグラス
ハイブリットライグラス
スムーズブロムグラス
トールフェスク
メドーフェスク
フェストロリウム
ケンタッキーブルーグラス
リードカナリーグラス
バヒアグラス
ギニアグラス
カラードギニアグラス
アルファルファ
オオクサキビ
アカクローバ
シロクローバ
アルサイククローバ
ガレガ
ローズグラス
パラグラス
パンゴラグラス
ネピアグラス
セタリア

（注） 上記の粗飼料作物等については、食用に供される畜産物を生産するために飼養される牛、馬、羊、山羊に供される場合に限ります。

（別表6） 飼料作物の範囲

青刈りとうもろこし
青刈りソルガム
テオシント
スーダングラス
青刈り麦（らい麦又はえん麦を含む。またサイレージ化したものを含む。）
青刈り大豆
子実用えん麦
子実用ハトムギ
オーチャードグラス
チモシー
イタリアンライグラス
ペレニアルライグラス
ハイブリットライグラス
スムーズブロムグラス
トールフェスク
メドーフェスク
フェストロリウム
ケンタッキーブルーグラス
リードカナリーグラス
バヒアグラス
ギニアグラス
カラードギニアグラス
アルファルファ
オオクサキビ
アカクローバ
シロクローバ
アルサイククローバ
ガレガ
ローズグラス
パラグラス
パンゴラグラス
ネピアグラス
セタリア

（注） 上記の飼料作物については、食用に供される畜産物を生産するために飼養される牛、馬、羊、山羊に供される場合に限ります。

別表7　地力増進作物一覧

対象作物
ソルガム エンバク ライムギ イタリアンライグラス ヘアリーベッチ レンゲ クリムソンクローバ アカクローバ クロタラリア ヒマワリ マリーゴールド シロガラシ ナタネ カラシナ ハゼリソウ スーダングラス ヒエ チモシー